

＝ お茶大 若手 I T P 中間評価会議(ドイツ) ＝



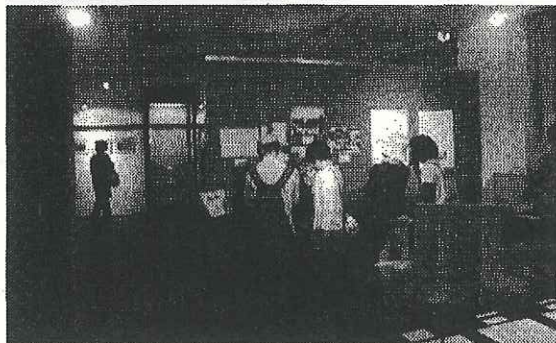
お茶の水女子大学では、日本学術振興会採択の若手インターナショナル・トレーニング・プログラム(ITP)委託事業「校風をつなぐ女性科学者の育成」第2のマリィ・キユリーをめざせ」が最終年度となった。本事業により実施している研修留学は、理学専攻の主として博士前期課程の学生が、英語による専門科目を1セメスター受講するもの。平成20年のプログラム採択以降、累計59名を派遣している。11月6日～8日、本事業担当教職員4名が、学生の研修留学先であるパーギシエ・ツッパタール大学(ドイツ)を訪れ、研修開始1ヶ月後の学生14名の就学・生活状況を面談調査し、プログラムの評価及び改善のため現地教職員との会合を開いた。又、プログラムを記念した樹木の贈呈式や両校共同で開催したレセプションにおいては、研修中の学生及び両大学教職員等関係者らが相互の親睦を深めた。

本研修終了後の学生の中には、留学先のファンドを獲得し研究留学へとステップアップしている者もいる。委託事業終了後も大学として研修留学制度を継続し、より多くの国際的に活躍する女性科学者の輩出を目指す。

＝ お茶の水女子大学歴史資料館 企画展示「東京と奈良 東西の女高師の交流」 ＝

お茶の水女子大学歴史資料館では、10月9日より19日まで「東京と奈良 東西の女高師の交流」と題した企画展示を行なった。

お茶の水女子大学の前身である東京女子高等師範学校と奈良女子大学の前身である奈良女子高等師範学校は、女子教員を養成するという同じ目的を持つ「姉妹校」として互いに



交流をしてきた。特に、毎年恒例の修学旅行では互いの学校を訪問するなどして親睦を深めていた。今年には奈良女高師の第一期生が東京女高師を初めて訪れた大正元(1912)年から百年目の記念の年にあたるため、両校及び両大学の交流の歴史に焦点をあてた。展示では、両校の創立期の生徒や校舎の写真、修学旅行時の記念写真や奈良女高師生徒たちによる修学旅行の記録、また、両校が連動した女子師範大学昇格運動時の資料、そして現在の両大学間の交流協定書などを展示し、明治末期から現在に続く交流の歴史を紹介した。

在學生・卒業生から、研究者、一般の方々まで、幅広い来場者があり、実際に交流をしていた両校及び両大学の卒業生からは、在学当時を懐かしむ声が寄せられ、会期中に2回実施したギャラリートークと本館見どころツアーも盛況であった。